

家庭学習応援だより

第6号

先日は運動会へのご協力ありがとうございました。昨年とは異なり、学年の団体種目が採用されました。そのため、競技も応援も大変な盛り上がりを見せていました。表現運動も限られた練習時間の中でも素晴らしいダンスができたと思います。学校からアンケートが出ますので、そちらへのご協力もお願いいたします。

さて、本お便り「コミュニケーション号」へのご協力をいただきましてありがとうございました。投稿していただいた保護者の皆様には深く感謝しております。今号では、お寄せいただいた投稿を紹介したいと思います。投稿いただいたご家庭のエピソードは、たいへん興味深く読ませてもらいました。親御さんの気持ちもとても共感できるものでした。どのご家庭も微笑ましい親子の関係をみさせていただいたような気がします。本お便りを通して、コミュニケーションの輪が広がっていき、子どもの成長について、学校と家庭がもっと気軽に相談できる、日頃思っていることが共有できる、よくなるとういことです。PTA 組織のような固定的なものではなく、例えば、開放型のテーマ・サロンや座談会に発展していくと保護者間のつながりがさらに増えてくるかもしれませんね。

コミュニケーションボード



我が家は、男の子2人で、下の3年生は虫が好きで、毎日学校から帰ると暗くなるまで1人で庭で虫を探し、もくもくと観察しています。夏に捕まえたカブトムシはいつの間にか卵から幼虫になり、10匹以上の幼虫が生まれていて、虫が苦手な母でしたが、子供と一緒に飼育していたら、私まで夢中になりだんだんと可愛く見えてきて、子供と一緒に虫の世話や観察を楽しんでいます。

(お子様は、3、6年生)

勉強中、私のイライラで下の子を怒ってしまったのですが、兄が、やってきて、「ぼくと勉強しようか!!こうやってやるんだよ!!」と教え、やるべき事をお知らせ、「お母さんに見せたら、喜んでくれるよ!!持ってってごらん!」と仲直りするきっかけまで作ってくれました!!あー、がんばらなきゃ!!と思うきっかけになりました。

(お子様は、1、4年生)

○ 学校から帰ってからの自主勉強

家に帰ってくるとすぐにアニメをみたり自分の好きなことをしていたのですが、学校から帰ってきたらさっさと宿題をやるう!ということになりました。

最初は泣いて嫌がったり、やはりすぐにとりかかることはできなかったのですが、ある日何も言わなくても机に向かうという行動が見られました。(すかさずほめました!)

毎日続けているというわけではないのですが、(汗)なにもいわずとも自分から行動を起こしているだけでも成長しているなど感じる今日この頃です。

(お子様は、2、5年生)

○ 1対1の時間

姉弟がいるとなかなか子どもと1対1の時間が取れなかったりするので、家族で協力して1対1で話せる時間を大切にしています。

(お子様は、3年生)

○ 子育て？親育て？

学年が上がるにつれ、習い事も忙しくなってきました。

「いろいろなことに挑戦してみたい」よくがんばっているなど親の私も感心するほどです。

もちろん、祖父母にもサポートしてもらっています。

ふと思う事は…私も学生の頃 父や母に苦勞をかけたなという事です。

仕事で忙しい中、嫌な顔せず応援してくれていました。親の我慢を見てきました。

子育て?!いやいや親の私が成長せねばと反省の毎日です。

たくさんの感謝を込めて。

(お子様は、3、5年生)

○ 何気ない幸せ

毎朝、子供たちを起こす為に、目覚まし時計が鳴り響く我が家。その音も心地良いのか、全く起きない子供たち。

そんな時は、1階のリビングから2階の寝室まで届くように、階段目がけて、「起きろ——!!!!」と叫ぶ私。それが私の発声練習となるようで、のどの調子を整えて一日のスタートを切ります。

子供たちは、のっそりと階段を下りてきて、リビングでゴロゴロ…。

いつも変わらない光景に、小さな幸せを感じる毎日です。

(お子様は、2、5年生)



国語を得意にするために欠かせないたった1つのこと

国語はどうやって勉強したらよいか見つけにくい教科の1つです。そのため国語でやることといえば、漢字の練習になってしまうでしょう。いうまでもなく、漢字の練習だけでは国語が得意科目になることはないです。ここでは、これまで宿題で軽視されがちだった「音読」について科学したいと思います。

国語が得意でない子に共通して言える特徴は、「最後まで集中して文章を読み切る力」がないことです。国語を勉強したがる要因は「文章を読むことへの嫌悪感」です。スポーツでもいきなり実践的な練習をしないのと同じように、初めから難解な文章を読んだり読解問題を解いたりするのではなく、1日10分の音読は欠かさずに行うことが大切です。担任に提出した音読カードに書かれているように、お子様は本当に毎日欠かさず音読の宿題ができていますか。親御さんは音読を聞いてあげていますか。

おわりに

今号では、久しぶりに読売新聞の「人生案内」の投稿を紹介したいと思います。この投稿は以前から、ネット上でも話題になっていたのです。すでにお読みになっている方もいるかもしれません。こちらの相談には、大学教授の大日向雅美先生が回答されています。こちらの投稿を皆様はどのように感じたでしょうか。昨年度も紹介したことがありましたが、「人生案内」に限らず、他の家庭の話題からご自身の家庭や子育てについて考えてみてください。

